

第3章 計画の基本的な考え方

1 計画の目指す姿

「誰もが元気で健やかに暮らせるまち」

本計画の推進により、「第6次熊野町総合計画」における政策目標の1つである、「誰もが元気で健やかに暮らせるまち」の実現を目指します。

2 計画の理念

高齢者一人ひとりが、たとえ病気であったり介護が必要な状態であっても、住み慣れた地域で、地域の人に支えられ、あるいは、自らが地域を支え、希望と生きがいに満ちて誰もが健やかに暮らすことができるよう、『「ひと」と「まち」のちょうどいい関係を育む「熊野」』を目指します。

そのため、身体的・精神的・社会的に高齢者それぞれが持つ能力に応じて自立した生活を送ることができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムを推進します。



3 計画の基本目標

基本目標1 支えあい、認め合う地域づくり

地域住民が、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する地域共生社会の実現のためには、介護や支援が必要な状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、高齢者のそれぞれの能力や状態に応じ、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの推進が重要となります。

そのため、医療や介護、保健、福祉の関係機関、地域団体や住民など関係者の連携を強化し、地域の課題の把握・解決を図る仕組みや基盤整備を推進します。

また、多様な生活支援のニーズに対応できるよう、地域の団体や事業者、住民等、多様な主体による生活支援サービスの提供体制を整備するとともに、サービス提供の情報収集やコーディネート、活動を支援する体制を整備します。

また、成年後見制度の利用促進も含めた認知症施策の充実を進め、認知症についての正しい知識と理解に基づき認知症高齢者本人や家族への支援を、包括的・継続的に実施する体制を整備します。

地域包括ケアシステムの連携拠点であり、包括的な支援を担う地域包括支援センター(おとしより相談センター)の機能強化等により、重層的に支えていくまちづくりの構築を進めていきます。



基本目標2 いきいきと活動するための環境づくり

高齢者が、住み慣れた地域で心身ともに健康に自分らしく暮らし続けるためには、健康づくりへの支援とともに、地域のさまざまな場に参加し、自己実現を行い、いきいきと輝きながら活動することができる環境が必要です。

高齢者が健康づくりや介護予防に自ら取り組めるよう支援を充実するとともに、高齢者本人の心身機能の向上を図るための介護予防事業の充実を図ります。

また、高齢者が身近な地域で気軽に参加できる生きがいづくりや交流の機会の充実、さまざまな活動に主体的に参画できる環境づくりなど、生活環境の調整や地域への参加を促し、一人ひとりの自己実現のための支援を行います。

特に、高齢者の方が地域と繋がりを保ちながら社会で役割を持って活躍できるよう、多様な就労・社会参加を促進する環境の整備を進めていきます。

また、介護予防や自立支援、重度化防止に向けた目標を設定し、その目標達成に向けた取組を実施、評価を行う仕組みをつくります。



基本目標3 安心して暮らすための基盤づくり

高齢者ができる限り住み慣れた地域や家庭で安心して暮らすことができるよう、基盤を整備する必要があります。

高齢者の生活の支えとして不可欠である介護保険制度の運用の中で、要介護状態等の軽減・悪化の防止といった制度の理念を堅持し、国の制度に沿って必要なサービスを適切に提供していくとともに、国や県と連携し、介護人材確保と介護現場負担軽減の両観点から介護サービス事業所等への支援の取組を推進することにより、持続可能な介護保険事業の運営に努めます。また、介護保険サービスの質の向上や自立支援に向けたケアマネジメント、介護給付の適正化等を推進します。

また、本計画期間内の必要な介護保険サービスの量を適切に見込み、各サービスの充実・強化を図るとともに、サービスの質の向上を図ります。

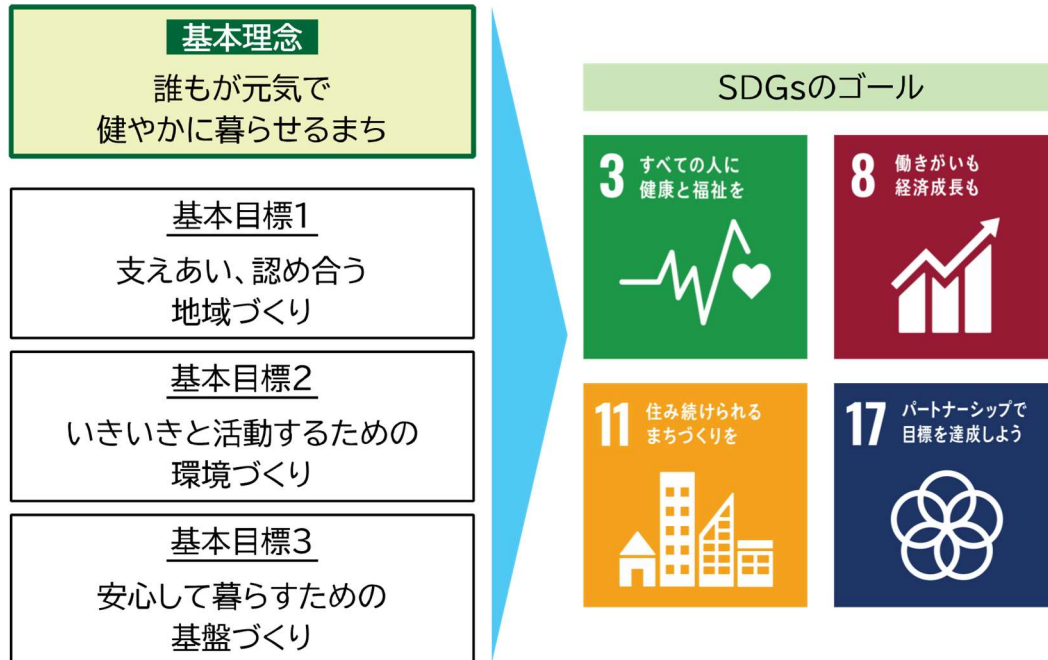
さらに、高齢者が安心して生活できるよう、関係課や関係機関と連携を図り、住まいをはじめとし、生活しやすいまちの環境整備を進めるとともに、地域が一体となり支援が必要な高齢者を見守る体制づくりを推進します。

また、昨今多発する地震や風水害などの災害時における対応、新型コロナウイルスに代表される感染症に対する取組及び体制づくりについて検討を行います。



4 SDGsの目標達成に向けた取組

SDGsはグローバルな課題の解決に向けて各国が取り組むものですが、それを達成するには自治体レベルでの取組が不可欠です。本計画で定める基本理念実現や基本方針に連なる目標の達成を目指す施策を推進することは、SDGsが定めるゴールとつながっていきます。



参考

SDGsとのつながり

SDGs(エスディーゼズ)(Sustainable Development Goals)とは、平成27年9月の国連サミットにおいて、日本を含む全 193 か国の合意により採択された国際社会全体の共通目標です。平成 28 年から令和 12 年までの間に達成すべき 17 のゴール(目標)と、それに連なり具体的に示された 169 のターゲットから構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



計画の目指す姿 「誰もが元気で健やかに暮らせるまち」

基本目標1 支えあい、認め合う地域づくり

1 地域包括ケアシステムの推進	(1) 在宅医療・介護連携の推進 (2) 地域ケア会議の充実強化 (3) 地域包括支援センター(おとしより相談センター)の機能強化 (4) 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の推進(庁舎内での部署連携、断らない相談窓口)
2 地域での生活支援の推進	(1) 生活支援サービス充実のための仕組みづくり (2) 日常生活・家族介護支援の充実 (3) 地域における見守り体制の強化 (4) 高齢者虐待防止・権利擁護事業の推進
3 総合的な認知症対策の推進	(1) 啓発活動及び予防活動の推進 (2) 認知症施策の充実 (3) 適切な医療・介護サービスの提供

基本目標2 いきいきと活動するための環境づくり

1 健康づくりと介護予防・重度化防止の推進	(1) 健康づくりの推進 (2) 介護予防事業の推進 (3) 介護予防・生活支援サービスの実施 (4) 住民運営の通いの場の充実 (5) 地域リハビリテーション活動の充実 (6) 口腔ケアの推進 (7) 自立支援、重度化予防の推進
2 高齢者からの社会参画の促進	(1) 生涯現役で活躍し続けられる社会環境の整備 (2) 生きがいや健康づくりにつながる活動の促進 (3) 人材育成と活躍の場の提供
3 高齢者の就業機会の確保	(1) 高齢者の能力活用の充実 (2) コミュニティビジネス展開の仕組みづくり

基本目標3 安心して暮らすための基盤づくり

1 介護サービス基盤の整備	(1) 介護サービス[居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービス、居宅介護支援] (2) 介護予防サービス[介護予防サービス、地域密着型介護予防サービス、介護予防支援] (3) 感染症や災害発生時の業務継続に向けた取組
2 介護サービスの質の向上・適正化	(1) 要介護認定の公平・公正化 (2) 介護給付の適正化 (3) 地域密着型サービス等の指定及び指導監督 (4) 適切な苦情対応体制 (5) 介護サービスを担う人材の確保と資質向上に対する支援
3 高齢者向けの住まいの確保	(1) 高齢者の住まいの確保 (2) 福祉連携住宅と西部地域健康センターの連携
4 高齢者が安全に暮らせるまちづくり	(1) 地域防災の体制の充実 (2) 地域防犯の促進 (3) 消費者被害防止対策の推進 (4) 交通安全対策の充実